

木と生きる幸福



2020年3月期 第2四半期決算

事業方針と今後の取り組みについて

2019年11月11日 住友林業株式会社

代表取締役社長 市川 晃



目次

➤ 事業環境	2
➤ 2020年3月期上期実績および通期予想	3
➤ 中期経営計画2021	4
➤ 事業戦略	6
➤ 研究開発・W350計画	10
➤ ESG	11
➤ 投融資、キャッシュ・フロー	12
➤ 株主還元	13

事業環境

《国内》

- 緩やかな景気回復が続くも、輸出の低迷や世界経済の減速懸念により、先行きの不透明感は強い
- 住宅市場は消費増税の一定の反動減が出ているが、前回増税時ほどの落ち込みではない

《海外》

- 米国の住宅市場では、住宅ローン金利の低下により、顧客の購買力が戻りつつある。良好な内需と10月の政策金利引き下げにより、引き続き好調に推移していくと考えられる
- 一方で、米中貿易摩擦や中東問題などもあり、世界情勢の先行きに関する不透明さも高まっている
- 豪州の住宅市場では、調整局面が続いているが、足元の住宅価格が上昇に転じるなど、市況改善の兆しも伺える

2020年3月期上期実績および通期予想

- 上半期の業績は概ね計画通りの水準で推移
- 通期予想の経常利益、当期純利益は期初予想を据え置き

(単位：億円)

(連結)	売上高			経常利益			売上高			経常利益		
	19/3期 2Q	20/3期 2Q ※	前期比	19/3期 2Q	20/3期 2Q ※	前期比	19/3期	20/3期 予想 ※	前期比	19/3期	20/3期 予想 ※	前期比
木材建材	2,352	1,169	△50.3%	34	29	△15.7%	4,871	2,450	△49.7%	80	60	△24.8%
住宅・建築	2,011	2,337	+16.2%	40	122	+205.2%	4,528	4,850	+7.1%	216	255	+18.1%
海外住宅・ 不動産	1,543	1,764	+14.3%	115	109	△5.4%	3,649	3,850	+5.5%	258	280	+8.5%
資源環境	97	91	△6.2%	20	18	△11.3%	195	190	△2.7%	40	30	△25.2%
その他	111	113	+2.0%	△4	4	-	223	245	+10.0%	1	10	-
調整	△186	△176	-	△18	△25	-	△377	△415	-	△81	△65	-
合計	5,929	5,297	△10.6%	187	257	+37.2%	13,089	11,170	△14.7%	514	570	+10.8%

*収益認識に関する会計基準適用後

「中期経営計画2021」

- 4つの基本方針のもと、社会課題の解決に取り組み、経営基盤の強化と未来に向けた事業の更なる推進を目指す

更なる成長に向けた未来志向の事業戦略の推進

持続的な成長に向けた経営基盤の強化

木を活かす研究開発・技術革新の加速

事業とESGへの取組みの一体化推進

◀業績目標※(2022年3月期)▶

売上高

12,600

億円

経常利益

850

億円

当期純利益

480

億円

ROE

10

%以上

「中期経営計画2021」

- 具体的な戦略を確実かつ素早く実行し、中期経営計画を達成していく
- 本中期経営計画終了後の持続的な成長に繋げるため、内容にもこだわる

(単位：億円)	売上高※			経常利益※		
	20/3期 予想	22/3期 計画	20/3期差	20/3期 予想	22/3期 計画	20/3期差
木材建材	2,450	2,660	210	60	100	40
住宅・建築	4,850	5,250	400	255	284	29
海外住宅・不動産	3,850	4,700	850	280	472	192
資源環境	190	230	40	30	50	20
その他	245	200	-45	10	25	15
調整	△415	△440	-25	△65	△81	-16
合 計	11,170	12,600	1,430	570	850	280

※収益認識に関する会計基準適用後

事業戦略 ① 木材建材事業

- **お客様の事業形態に合わせた営業体制への改革推進**
ICTを活用した物流合理化や材工を含めたコストダウン提案などソリューション機能を強化、シェア拡大を図る
- **戸建新築市場の縮小を見据えた多様な収益源の確保**
燃料用材、非住宅向け資材、国産材の取り扱い拡大
- **製販一体体制を強みに製造事業を強化**
高付加価の商品開発、生産性の向上



事業戦略 ②住宅・建築事業

- **戸建注文住宅のシェア向上、人手不足問題への対応**
お客様動向の分析、災害に強く環境に優しい住宅の提供、部材のプレカット化・基礎のプレキャスト化などを推進
- **一次取得者層の需要の取り込み**
土地施策の継続、まちづくり事業の推進
- **請負事業の多様化とストック事業の拡大**
非住宅建築分野の更なる展開、関連会社含めたグループ全体でのストック需要の取り込み



価格帯別、属性別の営業力強化



基礎のプレキャスト化



土地施策・戸建分譲事業の拡大

事業戦略 ③ 海外住宅・不動産事業

➤ 米豪戸建分譲事業の拡大

各地域の特性に応じた商品展開・マーケティングの推進、共同購買等による競争力強化および収益拡大を図る

➤ 事業ポートフォリオの多様化

不動産開発(Crescent社)・宅地開発(Mark III社)事業の基盤を強化

➤ アジアでの事業を成長させ、第3の収益の柱へ

不動産開発プロジェクトなどの新規事業を積極的に推進

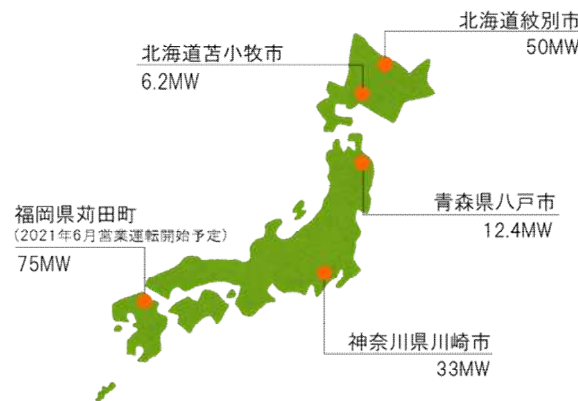


事業戦略④ 資源環境事業・その他事業

- **国内外の山林事業などにおける収益拡大**
機械化促進、インドネシアの泥炭地管理等の植林技術の向上
- **再生可能エネルギー事業の拡大**
中計期間において案件確定ベースで300 MW体制を目指す
- **介護事業の安定化、地域資源を活用した新たな事業の追求**
信頼される介護、宿泊事業等の新たな事業の可能性を追求



山林事業の収益性向上



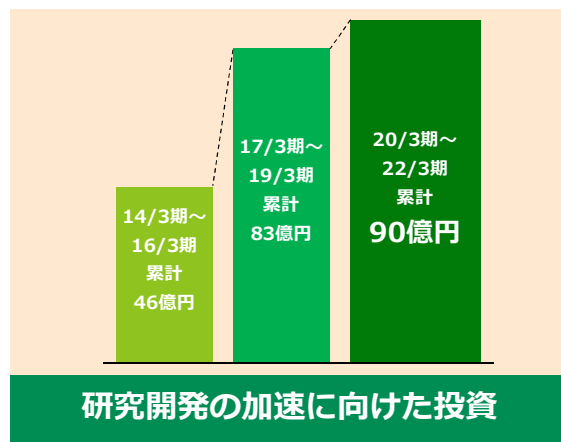
再生可能エネルギー事業の拡大



宿泊事業への参画 (「アクアイグニス多気」)

研究開発・W350計画

- **木の可能性を高める様々な研究開発**
バイオテクノロジー、耐火構造部材など広範な研究を推進
- **研究開発のさらなる加速**
前中計を上回る90億円の研究開発投資を計画
- **「W350計画」の礎となる筑波研究所新研究棟が完成**
中計期間において「W30」の実現に目途をつける



➤ SDGsへの貢献

中計2021では5つの重要課題と15項目の目標を設定

➤ 財務・非財務一体となった持続的な成長

「環境配慮型の商品・サービスの拡大」などを推進

➤ 気候変動に関するリスクと機会の把握と対応

将来の気候変動リスクに対する事業への影響についてシナリオ分析を開始。環境負荷の少ない新商品展開等にも活用



投融资、キャッシュ・フロー

- 中長期的な事業戦略に基づく成長投資を実行
- 同時にこれまで実施してきた投資案件を着実に成果に結び付けることで、中計3年間累計のフリーキャッシュフローを黒字化させ、財務規律と財務基盤の強化を図る

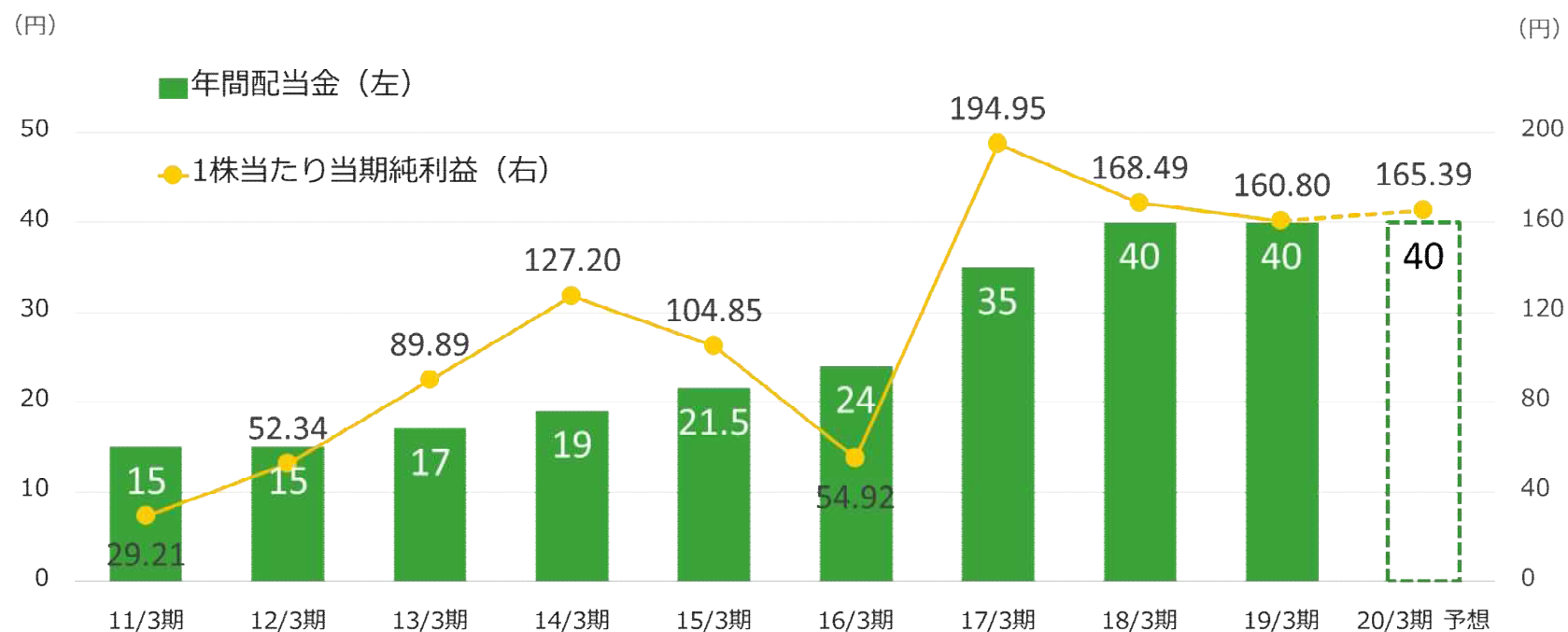
投融资計画 **1,500**億円 (3年累計)

フリーキャッシュフローの黒字化

(3年累計ベース)

株主還元

- 継続的かつ安定的な配当の実施
- 成長投資や財務状況、世間水準等を総合的に判断し、株主還元を行っていく



-
- ・本資料に記載した業績予想、見通し及び事業計画等は、資料作成時点において入手可能な情報に基づく当社グループによる仮定及び判断に基づくものであり、その正確性および完全性を保証し、また約束するものではありません。
 - ・業績予想、見通し及び事業計画等は、今後変更することがあります。

【お問い合わせ】
住友林業（株）
コーポレート・コミュニケーション部 IRチーム
icom@sfc.co.jp

木と生きる幸福



2019/11/11

Copyright 2019 SUMITOMO FORESTRY CO., LTD.